散歩の途中

窓野枠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
散歩の途中

【Ｎコード】
Ｎ２１１６Ｄ

【作者名】
窓野枠

【あらすじ】
散歩に出た主人公と愛犬の太郎である。いつもと変わらぬ散歩であったはずが、やがて、回りの世界が…

僕の家には一匹の犬がいる。柴犬に似ている。血統書などと言う大層なものはないが、多分柴犬だろう。名前は太郎。

僕と太郎はいつものように、散歩に出た。いつもの道を歩いて、いつもの曲がり角で曲がって、いつもの四つ角を右に曲がり、それは、もう日課となっている。そして、いつもの山脇さんの前を通って、関口さんの角を曲がると、我が家が見えてくる。この日も、そうやって帰ってきたから、関口さんの角を曲がったところで、我が家が見えるはずだった。

「あら、なあんか、変だな、太郎？」

そう、しばらく歩いて、変な原因が分かった。我が家がないのである。我が家だけではない。我が家の右隣の中山さんもない。左隣の駐車場もない。まあ、これはあってもなくてもないようなものだが。などと、悠長なことを言っている場合じゃない。あるであろう、我が家の前に来た。でもない。振り返ると、ついさっき曲がってきた関口さんちもない。何もかもがなくなってしまった。

この広大な大地に、僕と太郎だけがいる。はるか先に地平線が見える。その先には、山があっても良さそうなものだが、何も見えない。富士山だって見えて良さそうなものだ。だって、晴れた日には見えるときがあるのだから、こんな日に、見えていいはずである。僕はこんな状況になってしまってとても悩んだ。まだ、夕飯を食べていなかった。今頃は、我が家で、妻のこしらえてくれた手料理をつまんでいるはずだった。我が家がないのだから、台所があるはずがない。そんなことは分かっているが、テーブルと、料理だけはあってほしい、と願った。太郎にも晩ご飯のドッグフードをやれなければならない。そのしまってある、押し入れもない。そんなことは分かっている。我が家がないのだから、押し入れだってあるはずがない。

そもそも、なんで、全てがなくなったのだか、分からない。
「太郎、分かるか？　」
太郎を見ると、後ろ足で首をかいていた。僕もまねして、空いている手で首をかいてみた。何も変わらなかった。相変わらず、３６０度、すべて、空き地だった。誰か歩いていても良さそうだが、誰もいない。お巡りさんがいたら、この状況を聞こうと思ったが、誰もいないのだから、お巡りさんだっているはずがない。
気が付くと、もう、僕たちが歩いていた道もなくなっていた。僕と太郎は広大なアスファルトの上に立っていた。
「なあ、太郎、また、散歩するか？　」
太郎は尻尾を振って、ワン、と吠えた。僕と太郎は、目印のない広大な大地をまた散歩する。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2116d/

散歩の途中

2011年1月16日01時15分発行